

【単年度事業評価様式】

鶴見区地域子育て支援拠点事業
令和2年度重点目標評価結果・令和3年度重点目標

事業実施期間	2020年4月1日～2021年3月31日(3年度目／5か年度)
事業の実施者	社会福祉法人青い鳥 鶴見区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鶴見区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

1 2020年度重点目標の評価

2020年度 重点目標	<p>【重点目標1】 区と共に3期目3か年の拠点事業振り返りを通して、課題を把握し、今後の拠点事業の在り方を検討する。</p> <p>【重点目標2】 妊娠期から利用し、相談しやすい居場所づくりに努め、区と共に切れ目のない支援を目指していく。また、子育ての当事者として母親だけでなく、父親をサポートする工夫を検討していく。</p>
取組内容	<p>【重点目標1】 ○全区アンケート結果から、区の子育て支援に必要とされていることを分析し、今後の事業の方向性を見出す。 ○ネットワーク会議を、問題提起とその協議の場とし、その内容を区と検討していく。 ○上記ネットワーク会議からの課題、事業振り返りの作業、その間に得られた気づき、有識者を交えた事業評価会議をもとに、今後の目標を設定していく。</p> <p>【重点目標2】 ○プレママ、プレパパが参加しやすいイベントの定期開催する。 ○プレママ、プレパパが継続的に拠点を利用できる工夫を検討していく。 ○父親の子育て参加が進み、悩みを抱える様子も見られている。父親が利用、相談しやすい居場所づくり、父親同士が交流しやすい工夫を検討していく。</p>
取組の成果	<p>【重点目標1】 【振り返り】 ○全区アンケートから、子育て支援の情報収集の仕方に地域によって傾向があることが確認できた。誰でもどこでも子育て支援情報が得られるように、Twitter、Instagramを開設し、ホームページからも見れる形に整備した。フォロワー数はTwitterは10か月で465フォロワー、Instagramは5か月で347フォロワー(3/1現在)となり、多くの利用者が得られている。 ○緊急事態宣言発令中のため、ネットワーク会議は書面開催とした。コロナ禍での活動の様子、気づきなどを共有、ネットワークの今後へ向けての意見を集約し、課題を共有した。 ○有識者を交えた事業評価会議での課題をもとに、区と今後の目標について検討し、アウトリーチ事業を試行した。来年度は定期開催し、事業を通して地区担当保健師との連携を密にし、地域の子育て支援資源を確認しながらネットワークづくりについて考えていくことを確認した。</p> <p>【重点目標2】 【振り返り】 ○プレママ、プレパパ向けの事業 ・こうのとりのくらぶを実施し、定員を上回る申し込みがあった。必要に応じて沐浴体験等の個別の対応を行い、産後のイメージを持ってもらえるように工夫した。母子保健コーディネーターとの連絡会で情報交換し、イベント内容を検討した。 ・妊娠期から継続して拠点を利用できるように、マタニティ向け拠点紹介のチラシを作成した。両親教室では、そのチラシを活用し、保育教育コンシェルジュ相談をはじめとした相談事業、赤ちゃん向けのイベントの見学等を案内した。 ・妊婦向けの書籍の充実も検討し、あわせて周知した。 ○子育てパートナーと母子保健コーディネーターとの連絡会を毎月実施し、妊婦の現状の把握、必要とされる拠点事業の検討、相談の連携が可能になり、妊娠期からの切れ目のない支援を展開することができた。 ○父親向けの事業 ・サテライトでは今期より「パパと一緒にタッチケア」を実施(12月、2月)。子と触れあいながら、父親同士が交流する様子も見られた。 ・父親が交流しやすいように、一緒に工作、ブロックなどの遊びを促したり、スタッフが声かけしたりしている。ひろば利用だけでなく、イベントへの参加、父子のみでの来所も増えてきている。 ・パパ講座は、コロナ禍で実施できなかったが、ケアプラザで実施し、拠点利用者が講師を務める「パパ講座」の周知に努めた。</p>
取組の課題	<p>○コロナ禍で、各ネットワーク会議が書面での開催となり、意見交換ができなかった。ネットワークメンバーの意見から、連携を求める声が多く聞かれたので、コロナ禍でも実現可能な方法を検討していく。 ○母子保健コーディネーターとの連絡が密になり、妊娠期からの切れ目のない支援の検討ができた。今後も、妊娠中の拠点の来所を促し、出産後の利用につなげていく。</p>

2 次年度重点目標

2021年度 重点目標	<p>【重点目標1】 妊娠期からの切れ目のない支援を目指し、妊婦が訪れたいきっかけづくりや産後の継続利用につながるようなひろばづくり、拠点の持つ7事業を活かした試みを母子保健コーディネーターと連携しながら検討する。</p> <p>【重点目標2】 孤立しやすい環境の養育者が身近な場所で子育ての支援を利用できるように、地域の子育て資源の機関と連携し、地域で子育てをする土壌を作っていく。</p>
取組内容	<p>【重点目標1】 ○妊娠期から産後へと継続した支援となるように、妊婦のニーズを母子保健コーディネーターと共に把握し、妊婦が訪れたいきっかけづくりや産後も継続して利用につながるようなひろばづくりに努める。 ○サテライトでも、妊婦の利用が進むような試みを検討する。 ○子育てパートナーは、周産期の方への支援を一つ一つ積み重ねながら母子保健コーディネーターとの連携を深め、拠点の持つ7事業を活かして妊娠期からの切れ目のない支援を目指していく。</p> <p>【重点目標2】 ○拠点から遠い地域でアウトリーチ事業を実施し、利用のない養育者へ向けて、情報提供や相談を行う。 ○アウトリーチ事業を通して、地域の子育て支援関係機関との連携を深め、地区担当保健師と共に、地域の子育て資源を確認し、地域のつながりづくりを検討する。活動で得た情報をまたネットワークに提供していく。 ○拠点利用をしにくい養育者に地域情報をお届けするために、ホームページやSNSでの情報発信とその周知を強化する。</p>